



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより第16号
令和5年7月18日
・夏休みにむけての
「交通安全教室」実施！

学校教育目標 『 自立した生徒の育成 ー自律・調和・創造ー 』のもと

- ・自分を大切にする
- ・他者を大切にする
- ・粘り強くやり切る
- 生徒
- ・安全で安心できる
- ・地域や保護者とともにある
- 学校 づくりを目指します

今週末からの「夏休みに向けて考えてほしいこと」！

『交通安全』にかかわる取り組みに、やりすぎはありません。繰り返し、繰り返し行っていくことで、必ず「自分事」につながっていくと思います。

- 『自分の大切な命を守ること・他者の大切な命を守ること』ができる川中生になってほしいからです。
- 『自転車事故の被害者にも加害者にもならない』でほしいからです。

止まれ



『自転車は、「交通弱者」とも言われます。でも、自動車の仲間である「軽車両」です。みなさんが運転する自転車が歩行者にとって、安心・安全を脅かすものになってはいけません。交通ルールやマナーをきちんと守り、自らの命を守るために、ヘルメットを必ず着用して、安心して安全な自転車運転に心がけましょう！』

7/13 (木) 夏休みにむけての「交通安全教室」を実施しました！



講師 四日市北警察署 交通課総務規正係 松下さん

＜生徒感想分からの抜粋以外は、7/13川越中 HP から記載しています＞
7月13日(木)2限目～3限目は「総合」の時間として、『夏休みに向けて

の交通安全教室』を体育館にて実施しました。講師は、四日市北警察署交通課総務部規正係の松下さんです。全校生徒対象の取組ですが、今年度は川越中学校のすべての講演会については、学校の日常の様子を、子どもたちの頑張っている様子を見ていただきたいので、保護者の皆さまへ案内を出しています。当日、保護者の皆さまにもお越しいただきました。大変お忙しい中、本当にありがとうございました。
「自分やったら、どうするのか、どうしたら自転車事故を起こさないか」を自分事として考えてほしい。これは、今回の講話の最後に松下さんに伝えていただいた内容です。わかりやすい言葉をつなぎながら、大半が自転車通学の子どもたちに、自分の自転車運転を振り返ることができる内容にて説明から、子どもたちは、「交通事故が他人事ではなく、自分事」として考えることができる印象に残る講話となりましたので。今回の講演会の目的は・・・



- 交通ルールについて再確認し、登下校時や夏休み中の生活の中で交通安全に留意して生活しようとする態度を育てること。
- 自転車の正しい乗り方や歩道、横断歩道の正しい通行の仕方について知り、安心・安全に気をつけて自転車運転ができる態度を育てること。
- 自転車運転の加害者にも被害者にもならないために、自分事として話を聴ける態度を育てること。



川越中学校は昨年度から『命の大切さを考える講演会』として、1学期は三重県警察本部と連携して「交通事故被害者遺族会」から講師の先生をお招きしての講演会を6月に実施しています(2学期はLGBT性の多様性について深く学ぶ。3学期は「性教育」です)。また、1年生は5月に川越自動車学校と連携して「交通安全教室」を実施しました。今年度の1学期の4ヶ月期間に「命の大切さを考える講演会」「1年生交通安全教室」と合わせて3回目の取組となります。回数だけ考えたらずく思われるかもしれませんが、全校生徒の約7～8割の生徒たちが「自転車通学」の川越

中学校において、『安心・安全な登下校』『安心・安全な自転車運転』は最重要課題として取り組んで行く内容です。



交通安全にかかわる取り組みは、繰り返し、繰り返し行っていくことに「やりすぎ」はありません。自転車に乗っている以上、「軽車両」としての位置づけになります。川越中学校では、自転車通学に対して許可をしているのは、『交通ルールとマナーを守って、安心・安全な自転車運転ができる生徒』となっています。しかし、昨年度も、今年度に入っても、しばしば地域の方々から、川中生の自転車運転にかかわっての注意やお叱りを受けることがあります。一番多くいただく注意やお叱りとしては、『自転車の並列走行』です。本日の松下さんの講話にもあったように、自転車の並列走行は「道路交通法第19条により禁止」とされています。その並列走行によって、歩行者の安全を確保できなかったり、自動車の走行を妨害することにもつながっていきます。川中生の下校の様子から、並列走行による危険性や問題点もしっかりとわかりやすく伝えてもらいました。毎日何気なく登下校している自分の自転車運転を振り返り、車社会の一員として、自転車は「軽車両」としての責任と自覚を持って、もう一度自分の日常を顧みてほしいと思います。そして、最後に伝えてもらった内容の、『交通事故に巻き込まれたり、交通事故が発生した場合の対応』についてもくわしく教えていただきました。講話の内容を、川中生のより現実的な課題や問題としてもわかりやすく、実践的な内容として、子どもたちが考えることができる講話をしていただきました。子どもたちの目線に寄り添っての内容を工夫していただき、とても聴き

取りやすい言葉を選びながら講話をいただきました四日市北警察署 松下さん。本当にありがとうございました。

【生徒会副会長「3年4組 寺本快成さん」が松下さんに対して、お礼のあいさつをしてくれました】



【お礼の言葉】僕が今日の講演で思ったことは、自転車の交通事故は「9割が交差点での一時不停止や安全不確認が原因」で発生していることを知りました。自転車は、交通弱者で交通事故の半数で被害者にも、加害者にもなりうるんだと思いました。さらに、自転車は「軽車両の位置づけ」だから、左側通行や歩行者優先などとたくさんのルールがあり、しっかりと意識しないと事故を起こしてしまい、親や家族に迷惑がかかります。だからこそ、後悔しないように気をつけていきたいと思います。

【全校生徒の感想から一部抜粋 松下さんの「交通安全への想い」は子どもたちの心に響いています】

- 交通安全教室で、自分は関係ないと思って、いつか・もしかしたら、関係のないと思っていた事故に遭遇してしまうこともある。見直さないといけないと感じたのは、標識を見ていないところと、カーブミラーです。すべて立ち止まらずに通行しているところです。今日で標識をしっかりと見て、ミラーだけにまかせず、自分が1回止まって・・・これを頭に入れて自転車に乗る。
- たった一つルールを守らなかっただけで、被害者の人生や加害者の人生が、親の人生が狂ってしまうことになりました。支払いも高額で9,000万円以上もかかる裁判事例。一生かけても支払えないと思います。そんな人生を送らないためにも交通ルールをしっかりと理解し、車や自転車に乗ります。
- 今日の交通安全教室で心に残ったことは、「～だろう。というのをなくしてください。」です。私は自転車に乗っているときも歩いているときも、事故に遭うなんて考えていません。そういう意識の低さが事故につながっていると思います。最終的に「あーしておけば良かった」「あの時・・・」って後悔するのは自分です。「命」は自分で守るもので、自分でしかコントロールできないのです。今までは被害者側の方ばかり考えて、「事故に遭ったらどうしよう」。でも「一番怖いのは自分が加害者になる」ということです。
- 交通安全は今の川越中学校に一番必要だと思っていたのでちょうど良かったです。これで「並進走行」が少なくなるというなと思った。それ以外にも坂道を下るときに、「スピードを上げる」などの気になるところもあるのでそれとも少なくなるという。だから自分自身も事故をしないように安全運転を続けたい。
- 普段の自分の自転車の乗り方は、やはり危ないんだなって思いました。小学生のとき、カーブミラーもない見通しが悪いT字路で友だちが事故をしたことがありました。相手が速度を出していなかったので大事には至りませんでした。が、あの時いろいろできた事があるのではと気づくことがありました。まず、相手の連絡先を聞くこと。警察に連絡をしてもらうこと。家の人や学校に連絡をもらうこと。
- 一番印象に残った内容は、川越町の事故・事故死者数の表を見たときです。このとき4月からの事故死者数が「0」になっていてすごい！と思いました。でも、その反面、交通事故件数がとっても多いと思いました。これは死者がいなくとも、事故を起こして相手を傷つけてしまった人がとてもたくさんいることなんじゃ・・・と考えました。死者数「0」でも、あれだけ事故が起これば、いつか死者、そして自分の身にも被害が及ぶのではないかと不安になります。だから自転車に乗るときは左側通行で、しっかり左右前後を確認し自分も事故を起こさないように注意したいと思います。今日もしかしすると「私が事故を起こしたりするかもしれない」と常に心掛けて明日もその次も今日の「交通安全教室」を思い出して、事故がどれだけ危険か意識して行動したいです。
- 歩いて登校をしているのですが、自分の命を守るため、知らなかったと言い訳をしないためにも歩行者のルール、自転車のルールをすべて覚えておきたいと思いました。安全のために「ハンドサイン」を出したり、横断歩道を渡る途中で左をみるなどできる限りの行動をしていきたいです。歩行者だから安全と思わずに常に気をつけて行動したいです。